令和5年度

横見小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

〇命と人権を大切にし，たくましく生きる児童の育成
（・学力向上に取り組む～わかる喜びを実感できる授業づくり～・一人一人の自己肯定感を高め，認め合い，支え合う集団づくり）

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 藤本奈津美	校長:森下稲子　教頭:佐野恭子 教務主任:板東教古　研修主任:杉本峯代 特別支援教育コーディネーター:西真衣

校長

森　下　稲　子

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

〇次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

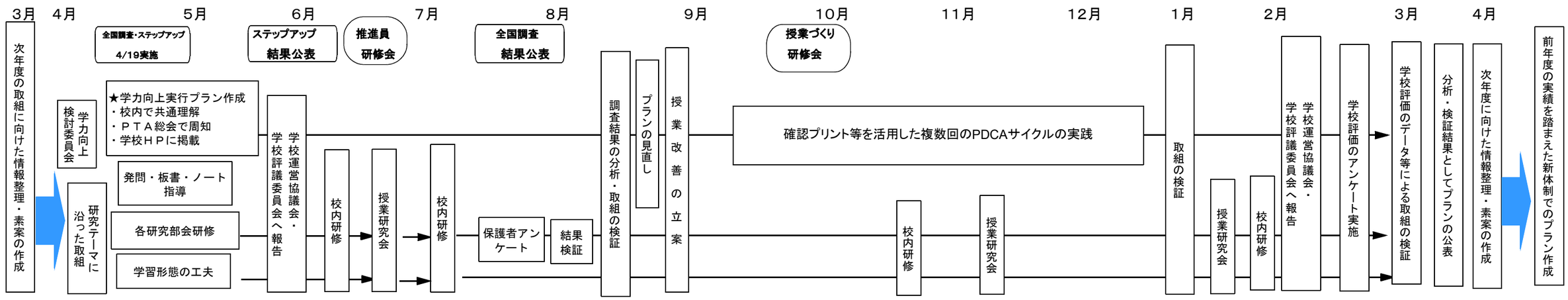
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇基本的な計算や漢字の読み書きなどの基礎基本の習得にまじめに取り組む児童が多く，習得率もよい。 ●長い文章や問題の意図を正確に読み取る力が十分ではなく，習得した知識や技能を適切に学習に生かすことが	・基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けることができるように，漢字や計算のミニテストで 85%～ 90%以上の正答ができる。 ・身に付けた知識や技能を適切に使って，他の学習や生活の場面において活用することができる。	・ポジティブな行動支援に基づく授業を展開する。（授業の中で〝できた”につながるA（活動の前）・B（活動）・C（活動の後）を工夫する。 ・漢字・計算のミニテストや毎日の音読等を継続して行う。 ・ノート指導や日記指導の充実を図る。			・既習漢字を使う場面（簡単な文を作ったり，問題をしたりする）を意図的に増やす。 ・基礎基本を徹底する時間を確保をするために行事の精選をはかる。 ・デジタル教科書や電子黒板の効果的な使用により，児童の学習への動機付けや意欲付けとなるようにする。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇音読や発表にはおおむね意欲的で，方法や手順が分かっている学習には，まじめに取り組んでいる。 ●自分の考えを筋道を立てて説明したり，文章に書いたりして表現する力が十分とはいえない。	・根拠や理由を明らかにしながら，順序よく自分の考えを整理して発表することができる。 ・考えに至る過程を明確にしながら，筋道を立てて自分の考えを表したり説明したりすることができる。	・学年に応じた基本文型を示し，それに基づいて表現練習をする。 ・考える時間を十分に確保し自分の考えが持てるように支援するとともに，考えを発表し合う学習を積極的に取り入れる。 ・自分の思いや考えを書く場面を増やすようにする。			・少人数を生かした指導をしていく。（細かいチェック・つまずきの発見・児童が自分で質問できる機会の確保） ・場に応じた適切な言葉遣いで話したり，書いたりすことで，文章表現の基礎的な力を定着させる。 ・担任同士の教材の共有や引継ぎができる資料の共有をしていく。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇決まりを守って落ち着いた態度で学校生活を送り，与えられた課題にまじめに取り組んでいる。宿題をする習慣はほぼ定着している。 ●自分から課題を見つけて取り組むことが苦手である。集中が長続きしない傾向にあり，話を十分に聞くことのできない児童がいる。	・基本的な生活習慣を身に付け，家庭学習の習慣を定着させる。 ・自主学習ノートを使い，自分で考えて予習や復習を進んですることができる。 ・タブレットの学習アプリを活用し，自主的・計画的に学習を進めることができる。	・「家庭学習の手引き」を配付し，家庭との連携を図りながら，各学年に応じた生活や学習の仕方を指導する。 ・自主学習ノートの提出を継続させ，定期的に指導を加え，内容の充実を図らせる。 ・学習の流れの振り返りができるように可視化するなど工夫する。 ・タブレット等ICT機器を効果的に活用する。			・基本的な生活習慣を確実に定着させる。（丁寧さ・根気強さ・注意深さ・学習への意識を身に付けさせる。） ・ 家庭学習や自主学習については，自分で時間を決める等，計画・実行ができるように，「家庭学習の手引き」を活用し，指導・助言をする。 ・学校と家庭との連絡を密にし，連携して指導に当たれるようにする。

令和4年度　　学力向上ロードマップ